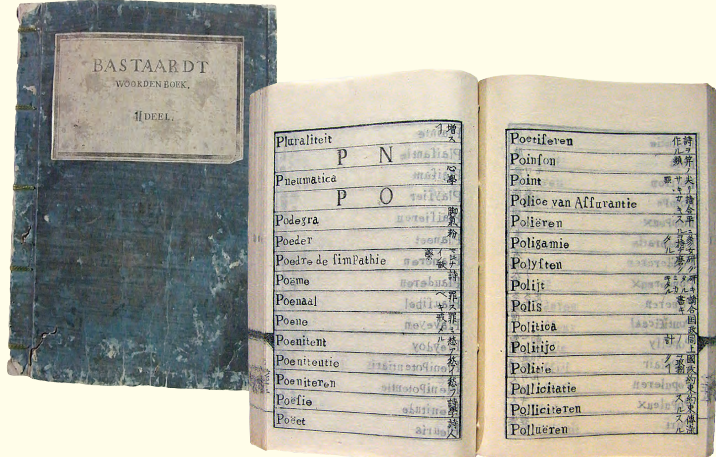


中津市歴史民俗資料館 分館  
村上医家史料館

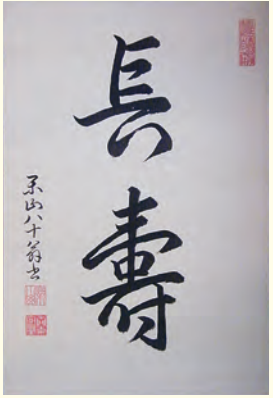
村上医家は、初代が寛永17年(1640)諸町に医院を開業以来、現在に至るまで医家として継続し、7代玄水が行った人体解剖の資料のほか数千点におよぶ医学関係やその他の資料がのこされています。



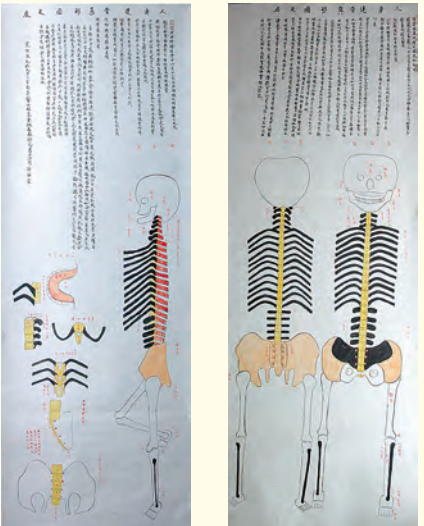
「バスタード辞書」下巻



村上玄水が行った人体解剖をもとに描かれた片山東籬の解剖図下書き



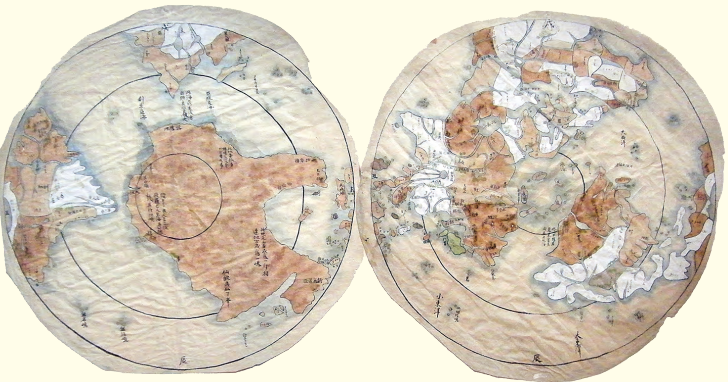
前野良沢の書「長寿」



根来東叔の「人身連骨真形図」(1741)



和漢薬の薬箱

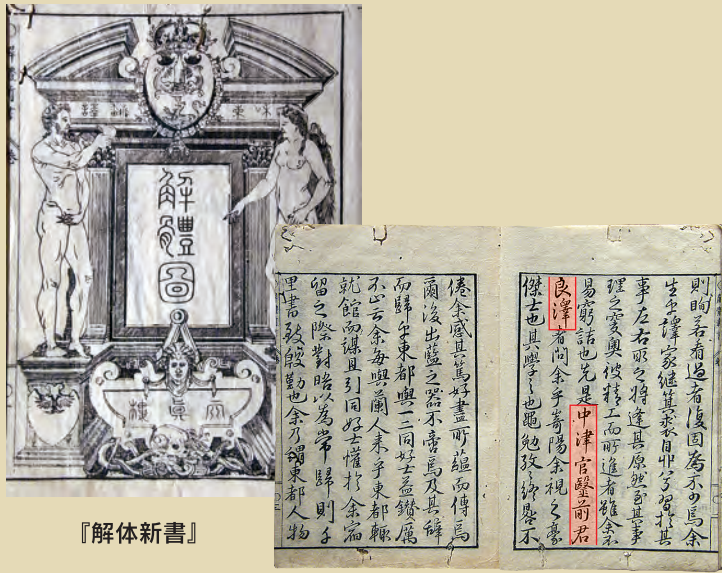


マテオ・リッチ系世界図

中津市歴史民俗資料館 分館  
大江医家史料館

「医は仁ならざるの術 務めて仁をなさんと欲す」

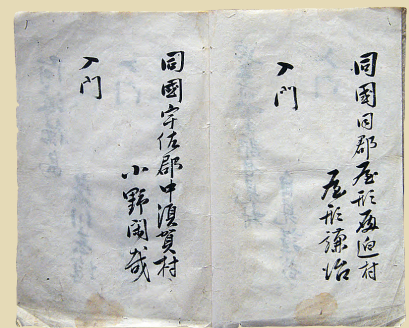
この言葉は、宝暦8年(1758)初代大江玄仙以来、代々藩医を勤めた大江医家に伝えられたことばです。大江医家には、医学を中心とした蘭学関係資料も多く、中津の種痘関連資料、「ペースメーカーの父」田原淳の資料などを所蔵しています。また、併設の薬草園では、江戸時代の主な生薬を鑑賞することができます。



『解体新書』



華岡青洲画像 青洲乳癌図



大江門人帳



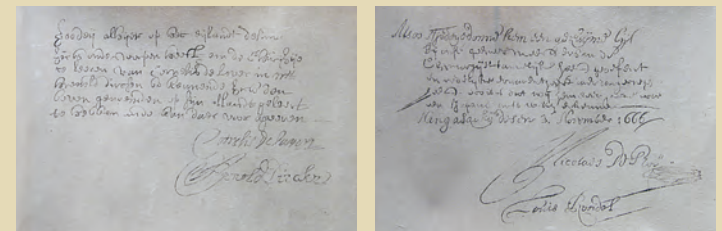
六代大江雲沢



辛島家「痘瘡唇舌鑑図」



辛島家の薬籠



平田長太夫の阿蘭陀流外科修業証書



『和蘭全軀内外分合図』(1682年頃完成、1773年刊行)